

平成24年度青少年教育施設のあり方を考える懇話会における総合評価シート

平成24年9月20日

施設名	幡多青少年の家	所管課室	生涯学習課
-----	---------	------	-------

1. 施設の概要

施設所在地	幡多郡黒潮町上川口1166
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の管理運営に関すること ・施設の利用の許可に関すること ・設備の維持管理に関すること ・主催事業及び受入事業の企画運営に関すること <p><平成23年度主催事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくチャレンジ ・泊ってドキドキ！遊んでワクワク！（夏編・秋編） ・シーカヤックで冒険！ ・ちびっ子忍者！－落城合戦－ ・心のふれあい－シルバー編－ ・メリークリスマス ・小学生バレーボール幡多大会 ・中学生リーダー研修
施設内容	<p>幡多青少年の家においては、本県の基本的教育課題である「心豊かで自立できる人づくり」の理念を達成するため、当所の目標を掲げ、また随時運営方針を見直しながら、事業の2つの柱である受入事業及び主催事業を実施している。</p> <p>構造：本館 鉄筋コンクリート 2階建 延べ2,655.55㎡ 体育館 鉄筋コンクリート2階建 延べ1,192.26㎡</p> <p>施設概要： 本館宿泊棟 25室(定員200名) 食堂 (定員200名) 大研修室(映写室)(定員200名) 中研修室(定員50名×2室) 小研修室(定員20名) 和室(8畳・6畳) 茶室 野外炊飯棟 115.52㎡</p>
職員体制	<p>職員：所長 1名、チーフ1名、主任1名、主任社会教育主事2名、非常勤職員2名、臨時的任用職員3名 合計：10名</p> <p>現業部門は大方青少年育成会に委託(9名)</p>

2. 利用実績

(1) 宿泊者数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平均
人数	12,217	10,697	10,609	9,842	9,106	10,494

(2) 利用団体数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平均
団体数	617	520	581	565	545	566

(3) 利用者数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平均
人数	32,401	28,665	27,052	27,773	27,247	28,628

3. 業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	<p>利用拡大のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな自然環境(山、川、海)に恵まれた施設の立地条件を最大限に活かして「四万十川シーカヤック」などの自然体験系のプログラムを開発し、幅広い利用者ニーズに対応できるようにしている。 ○各プログラムの狙いや準備・実行段階での留意点などを整理したマニュアルを作成して、効果的な研修が行えるよう配慮するとともに、研修計画を作成する際には、指導者(学校教諭等)に主体的に関わってもらい、適切な研修効果を得るための工夫を行っている。 ○黒潮町内の小学校にスナッグゴルフの出張事業を実施し、施設の有するノウハウを幅広く地域に還元している。 ○施設のホームページには、年間の主催事業計画や受入事業で提供できるプログラム内容を画像入りで詳しく掲載し、自然あふれる幡多地域の季節の画像を掲載するとともに、施設で作成したカレンダーを配布するなど、施設の魅力を幅広く情報発信している。 ○青少年を対象とした取り組みだけでなく、シルバー体操や演芸大会を行う「心のふれ合い～シルバー編～」のような高齢者を対象にした地域の交流事業を展開している。 ○中1学級づくり合宿の事前研修の位置づけとして、幡多地域内の小学校の連合研修を実施している。研修にあたっては、施設側から学校側に対して、事業の必要性や効果を積極的にPRし、研修実施後も事業効果が継続されるよう連携に努めている。 ○各市町村の教育委員会への訪問及び校長会への出席を通じた宿泊研修の成果報告や主催事業の積極的なPRにより利用拡大を図っている。
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>利用者へのサービス向上のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者(団体)の研修目的を明確化するため、事前研修相談を十分に行ったうえで、研修の詳細を共同で計画し、目標達成に向けた取り組みを行っている。 ○中1学級づくり合宿について、教師や生徒を対象に合宿直後に、また、教師向けに2ヶ月後にアンケートを行い、利用者のニーズ把握や事業効果の検証を行っている。 ○主催事業のボランティア参加者(幡多高等看護学校や黒潮看護専門学校の生徒、臨時教員など)に対して、事前の事業説明を徹底し、利用者に安心感を与えている。 ○職員の資質向上を図るため、担当業務ごとの研修参加に加えて、業務の内容によらず全職員が備えるべき能力開発を目的とした外部講師による研修会を実施している。(平成23年度は「発達障害(肢体不自由)のある子どもへの対応について」)また、新人指導員については、年度当初から職員研修を実施し、受け入れ時には適切な指導ができるよう職員の資質向上に努めた。
③施設の運営について	<p>施設の運営について、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幡多地域内の小中学校等を日頃から積極的に訪問して、施設のPRや事業実施後の情報交換を行い、その結果を新たなプログラム開発等に活かしている。 ○幡多青少年の家と(財)大方青少年育成会の全職員が日頃から情報共有に努めており、主催事業の実施内容の検討をはじめ、当日の受入対応、事業実施後の振り返りに至るまで協働した取り組みを行っている。 ○野外体験活動中の突発的な事故や自然災害に対応できる危機管理マニュアルの作成を行い、状況に応じて適切な対応が出来るように職員間で情報共有を行っている。 ○デマンド装置を有効に活用し、節電やエコ対策に積極的に取り組んでいる。 ○リユース・リサイクルを目指し、職員による修繕作業に取り組むことにより、修理・修繕費の節約に努めている。 ○各主催事業の事前打ち合わせ、実施後の反省会を行い、次年度以降の事業内容の改善につなげている。

④利用実績	○平成22年度と比較して、宿泊者数は736名の減少(▲8%)、利用団体数は20団体の減少(▲3.7%)、利用者数は526名(▲1.9%)減少している。
⑤収支の状況	○宿泊者数が減少したことにより、平成22年度と比較して、使用料収入は263千円の減収となった。
<p style="text-align: center;">総合評価</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>○施設長を中心として、幡多地域内の小中学校等との連携を密にして、施設のPRや事業実施後の情報交換に努めている。</p> <p>○中1学級づくり合宿と連動性のある事前研修として、施設自らが企画提案した小学校の連合研修を実施している。また、研修実施後は、事業効果が継続されるように学校との連携に努めている。</p> <p>○職員の資質向上を図るため、外部研修への職員派遣はもとより、外部講師を招聘した研修会を開催するなど、絶えず新しい視点で、施設のレベルアップに取り組んでいる。また、新人指導員については、年度当初から職員研修を実施し、適切な指導ができるよう指導員の資質を高めている。</p> <p>○幡多青少年の家と(財)大方青少年育成会の全職員で、主催事業ごとに実施案の検討、詳細案の事前確認、情報共有を行うとともに、協働して事業等に取り組んでいる。</p> <p>○今後、更なる向上を目指して、以下の取り組みを期待する。</p> <p>①黒潮町地区の地域・施設利用のアドバイザーとしての役割を担えるよう、さらに地域と連携し、幡多地域の豊かな自然を活かした多種多様な事業展開を行い、全国に情報発信していくこと。</p> <p>②新聞エコバッグづくりやロッククライミングなど、雨天時も実施可能なプログラムや、火を起こす、泥水から水を作るといった災害時の体験プログラムなどの開発を検討し、幅広い利用者ニーズへの対応に努めること。</p> <p>③教員の勉強会や交流の場として活用してもらえるように積極的なPRを行うこと。また、企業研修も積極的に受け入れオブザーブ(注視)することにより、利用者増加とともに、職員の資質向上につなげること。</p>